



IBJ* 防除情報 第72号

(*Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)



いまどきの防除

(病害虫の発生予察と薬剤による防除対策)

●農水省は、6月14日に向こう1ヶ月の主要病害虫発生予報を発表しました。その中から主な作物を対象に、発生が「多い」と発表された病害虫とその地域及び防除農薬(弊社の推奨農薬)を一表にまとめましたので、推進のご参考にして下さい。(特記以外の使用方法は希釈液散布)

作物名	病害虫名	地域	防除農薬(当社推奨農薬)	
稲	縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	関東	MR.ジョーカー粉剤DL	
	イネミズゾウムシ	北陸	MR.ジョーカー粉剤DL*1	
	ツマグロヨコバイ	四国	MR.ジョーカー粉剤DL	
野菜・花き	野菜共通	オオタバコガ	北陸	トアローフロアブルCT、アクセルフロアブル*2、アタブロン乳剤*2
	いちご	ハダニ類	九州	アカリタッチ乳剤
	トマト	コナジラミ類	北陸	ウララDF、アタブロン乳剤(タ)、テルスターフロアブル(オ)
	ねぎ	アザミウマ類	関東、北陸、近畿、四国	ウララDF(ネ)、アタブロン乳剤(ネ)
	花き共通	オオタバコガ	北陸	アクセルフロアブル*2
	きく	アザミウマ類	北関東、北陸	アタブロン乳剤(ミナミ)、テルスターフロアブル(ミカン)、ガゼット粒剤(ミカン)
果樹	かんきつ	ハダニ類 (ミカンハダニ)	南関東、九州	フロンサイドSC/水和剤、アカリタッチ乳剤
	なし	黒星病	北東北、九州	フロンサイドSC/水和剤
		アブラムシ類	北陸	ウララDF、テルスターフロアブル/水和剤
	もも	せん孔細菌病	東海	—
りんご	黒星病	北海道	—	
茶	茶	炭疽病	近畿、北九州	フロンサイドSC/水和剤
		チャノホソガ	九州	テルスターフロアブル/水和剤
		ハダニ類 (カンザワハダニ)	東海、九州	—
		ハマキムシ類	南関東	アタブロン乳剤*3、テルスターフロアブル/水和剤*3

(タ) : タバココナジラミ類 / (オ) : オンシツコナジラミ / (ネ) : ネギアザミウマ / (ミナミ) : ミナミキイロアザミウマ / (ミカン) : ミカンキイロアザミウマ

- *1 : イネミズゾウムシ(成虫)での登録
- *2 : 登録作物を確認してご使用下さい
- *3 : チャノコカクモンハマキ、チャハマキでの登録

- 野菜共通・果樹共通での防除農薬(当社推奨農薬)は、登録作物・病害・害虫種を確認して御使用下さい。
- 注意事項 : フロンサイドSCは施設内では使用しないで下さい。

用語概説(地域)

北東北 : 青森県、岩手県、秋田県 / 南東北 : 宮城県、山形県、福島県 / 北関東 : 茨城県、栃木県、群馬県
南関東 : 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 / 北九州 : 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県 / 南九州 : 熊本県、宮崎県、鹿児島県



大豆畑の雑草

今月号は、近年飼料用とうもろこし畑や大豆畑で問題となっている雑草の「帰化アサガオ類」「アレチウリ」「イチビ」についてご紹介します。

参考資料

- ・中央農業研究センター「生態的雑草管理ポータルサイト」より「帰化アサガオ類圃場周辺管理技術マニュアルver.2」および「大豆畑における帰化アサガオ類防除技術」
- ・（一社）全国農業改良普及支援協会「帰化アサガオ類に気をつけましょう！～大豆畑へのまん延防止ポイント～」
- ・（公財）日本植物調節剤研究協会「植調 第49巻第1号および第10号」
- ・全国農村教育協会「植調雑草大鑑」

① 帰化アサガオ類（ヒルガオ科サツマイモ属）

特徴

- ・日平均気温が15℃を超える時期から出芽し始める。
- ・種子は硬実で休眠性が強く、長期間にわたりだらだらと発生する。
- ・湛水条件では出芽しないが、硬実種子は湛水土壌中에서도ほとんど死滅せず落水すると出芽する。

ポイント

大豆による被陰には弱いいため、大豆草丈の生長によって土壌表面を覆うまでの徹底防除が重要となる。

主な帰化アサガオの種類

アメリカアサガオ	マメアサガオ	ホシアサガオ
<p>分布：全国 出芽：6～8月 花期：8～10月</p> <p>特徴：葉やつるやガクに毛が多い。葉には3～5裂の深い切れ込みがある。花は直径3～4cm位。色は青紫、赤紫、白色など様々。 アメリカアサガオの変種で葉に切り込みがないタイプをマルバアメリカアサガオという。</p>	<p>分布：本州以南 出芽：5～8月 花期：9～10月</p> <p>特徴：子葉の切れ込みが深い。葉の縁が赤紫色を帯びることがある。 花の直径は1.5～2cm。色は白色が多いが、まれに淡紅紫色のタイプもある。</p>	<p>分布：本州以南 出芽：5～8月 花期：9～10月</p> <p>特徴：子葉の切れ込みが深い。花の直径は1.5～2cm。色はピンク色で、中心部はより濃いピンク色。</p>
マルバアサガオ	マルバルコウ	
<p>分布：本州以南 出芽：5～7月、花期：6～10月</p> <p>特徴：葉の両面に短毛が密生する。つるは褐色を帯びて下向きの長い毛が生える。 花冠は6cm位で色は多色に及ぶ。</p>	<p>分布：本州以南 出芽：4～8月、花期：6～10月</p> <p>特徴：茎、葉柄、葉ともに無毛。葉の質は他のアサガオ類に比べて薄い。 花は五角形で直径約1.5cm。色はオレンジ色。</p>	

防除のポイント <帰化アサガオ編>

その① 圃場周辺の管理が重要！

圃場周辺に発生した強害雑草は種子を作って圃場内に侵入、さらには地域全体に蔓延していきます。したがって、圃場周辺に発生を確認したら、種子を作る前の徹底防除を行ってください。

その② 開花・結実前の防除が重要！

ここでの防除は、刈取りや非選択性茎葉処理除草剤の使用が効果的です。除草剤を使用する場合は、株元までかかるようにていねいに散布してください。

その③ 大豆によって畦間が覆われるまで蔓をださない徹底防除が必要！

アサガオ類は光が遮断されると生育が抑制されます。従って、大豆で畦間が覆われるまで、中耕や除草剤を組合わせて数回防除を行ってください。

②アレチウリ（ウリ科アレチウリ属）

特徴

- ・北アメリカ原産の帰化植物。
- 出芽：4月頃から10月まで長期に渡り出芽する。（芽生えはきゅうりやかぼちゃに似る）
- 花期：8月下旬頃から10月。
- ・生育速度が非常に速いつる性植物で、長さ数～十数mになる。
- ・果実に鋭い棘が密生する。
- ・ツルから1本ずつ五角形の葉が生える。

ポイント

帰化アサガオより生育スピードが速く大豆の日陰に強い。

※“特定外来生物”に指定されているため、生きたままの植物体を持ち出したり、栽培することが禁止されています。取扱いにはお気をつけください。

防除のポイント <アレチウリ編>

その① 圃場周辺の管理が重要！

アレチウリは、水系で種子が移動し拡散している可能性が高いため、水田輪作地帯では地域全体に急速に拡散することが懸念されます。そのため、たとえ小発生であっても徹底的に取り除いてください。

その② 蔓延圃場では、種子生産を減らす方向の対策を考える

アレチウリは秋まで発生が続くため、大豆栽培ではアレチウリの種子生産を減らすことは難しいと考えられます。そこで、アレチウリの花期（8月下旬以降）までに収穫が終了する作物に転換するなどの対策により、埋没種子をできるだけ減らす対策も必要です。

③イチビ（アオイ科イチビ属）

特徴

- ・一年生草。
- 出芽：4～7月。繁殖期は6～10月頃。
- 花期：8～10月。
- ・飼料用とうもろこしの圃場や転作大豆圃場で発生が多い。
- ・1個体当りの種子生産量が多く、種子の土壤中での生存期間は20年以上と長い。
- ・飼料用作物に混入し、サイレージ調整した場合の異臭の原因となり、乳牛の嗜好性が低下する。



ポイント

種子を作る前の徹底防除が重要！

防除のポイント <イチビ編>

効果的な薬剤を使用する。

イチビは長期にわたり発生するため、除草剤で防除する場合、慣行の土壌処理剤だけでは発生が防げないため、茎葉処理と合わせた体系処理が必要。

難防除雑草を蔓延させないために・・・

防除のポイント（重要事項）

・圃場周辺に発生を確認したら、すぐに抜き取り、徹底防除。

圃場周辺に発生した強害雑草は、種子を作って圃場内に侵入。さらには地域全体に蔓延していきます。

したがって、圃場周辺に発生を確認したら、種子を作る前の徹底防除を行ってください。

・年間複数回の防除対策が必要。

強害雑草はどれも発生期間が長いいため、1回の防除では不十分です。圃場に種を落とさないために、年間複数回の防除を行ってください。



●2017年5月18～6月19日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、次の通りです。（下線部が適用拡大になりました。）

適用拡大

◇ フルパワーMXジャンボ（6/14）

概要

<適用雑草名の追加>

作物名「移植水稻」について、適用雑草名に「シズイ」を追加する。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	シズイ	移植後5日～ ル`I3.5葉期 但し収穫60日前 まで	小包装 (パック)10個 (500g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる

<使用上の注意事項の変更・追加>

(2) 本剤の使用時期は、ノエの3.5葉期までなので、時期を失ないように散布すること。なお多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは4葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、オモダカは発生始期まで、クログワイ、コウキヤガラは草丈10cmまで、**シズイは草丈3cm**まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

(3) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、**シズイ**は発生期間が長く生育段階によって効果にフレがあるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。

弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチウ量を測定し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 開発普及部

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2
TEL 03-6256-9170 FAX 03-3263-2078

ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>



センチウ検定
無料キャンペーン
実施中